EU Indicators

発表日:2019 年7月 31 日(水)

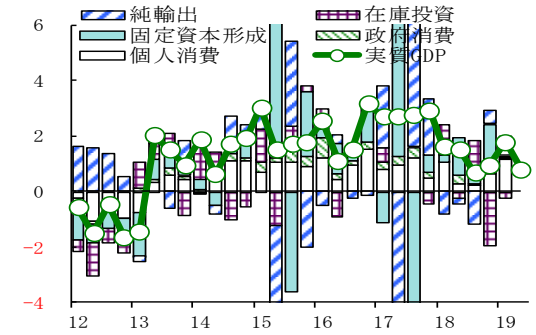
欧州経済指標コメント:4-6 月期ユーロ圏GDP

～外需不振がいよいよ内需に波及してきた～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主席エコノミスト 田中 理(TEL:03-5221-4527)

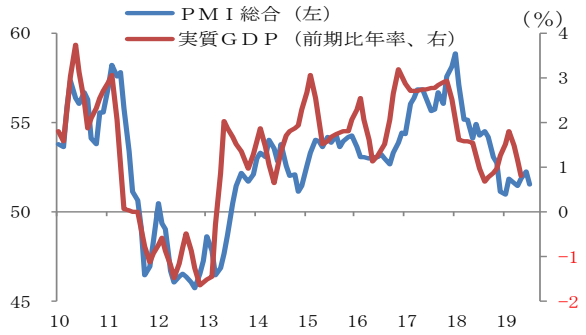
- 4-6月期のユーロ圏実質ＧＤＰ成長率は前期比＋0.2%、同年率＋0.8%と、1-3月期の同＋0.4%、同年率＋1.8%から鈍化した。国別内訳は８月14日、需要項目別の内訳は９月６日に発表。
- 各国統計局から発表済みの国別計数は、フランス（1-3月期：同＋0.3%→4-6月期：同＋0.2%）、スペイン（同＋0.7%→同＋0.5%）、イタリア（同＋0.1%→同横這い）、オーストリア（同＋0.4%→同＋0.2%）、ベルギー（同＋0.3%→同＋0.2%）が軒並み鈍化。８月14日に発表されるドイツも小幅マイナス～横這い圏が見込まれる。需要項目別の内訳が公表済みのフランスでは、政府消費、企業設備投資、公共投資の増勢加速と、輸入の減少が成長を後押しした一方、個人消費と在庫の減少が足を引っ張った。黄色いベスト運動関連の財政出動が景気を下支えした格好。
- ユーロ圏全体でみると、ドイツやイタリアなど製造業の外部環境に依存した国の低迷が続く一方、フランスやスペインなど内需に支えられた国の成長にも陰りが出てきている。これは製造業部門の不振がサービス業や雇用判断に波及しつつある各種の企業景況感指数が示唆する内容と一致。
- 同日発表されたユーロ圏の失業率が5月：7.6%→6月：7.5%に一段と改善、2008年の世界的な経済金融危機以前の水準に近づいている。ただ、同じく同日発表されたドイツの雇用関連統計で、失業者が過去３ヶ月のうち２ヶ月で増加するなど、雇用情勢の改善もそろそろ曲がり角に到達。7-9月期入り後の各種の企業景況感が一段と悪化しており、年後半の景気回復に黄信号が点灯。

■ユーロ圏：実質ＧＤＰ成長率（前期比年率、%）



出所：Eurostat

■ユーロ圏：ＰＭＩ総合と実質ＧＤＰ



出所：IHS Markit、Eurostat

■ユーロ圏ＧＤＰ（前期比年率＜%＞、括弧内は寄与度＜%ポイント＞）

	名目ＧＤＰ	実質ＧＤＰ	内需					外需		
				個人消費	政府支出	固定資本投資	在庫		輸出	輸入
17/7-9月期	3.7	2.8	(▲ 3.6)	2.3	1.8	▲ 17.9	(▲ 0.8)	6.3	4.9	▲ 8.2
17/10-12月期	4.0	2.9	(0.9)	0.9	0.9	3.1	(▲ 0.4)	2.0	9.6	5.7
18/1-3月期	2.9	1.6	(2.4)	2.0	0.1	1.1	(1.1)	▲ 0.8	▲ 1.9	▲ 0.3
18/4-6月期	3.3	1.5	(1.7)	0.6	1.6	6.7	(▲ 0.3)	▲ 0.2	4.6	5.5
18/7-9月期	2.2	0.7	(1.9)	0.5	0.2	1.7	(1.2)	▲ 1.2	1.1	3.9
18/10-12月期	2.3	1.0	(0.5)	1.3	2.5	6.2	(▲ 1.9)	0.5	4.7	4.1
19/1-3月期	3.5	1.8	(1.1)	2.2	0.4	0.2	(▲ 0.2)	0.7	2.7	1.4
19/4-6月期	—	0.8	—	—	—	—	—	—	—	—

出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。